

整備計画における流域対策の検討

整備計画レベルでの流域対策効果量

1. 検討内容

- 本資料は、第 40 回流域委員会資料 2-9 において示した、整備計画における流域対策効果量に関する検討資料である。
- 検討は 1/20 降雨（1/20 最適化）、1/30 降雨（1/30 最適化）、1/30 降雨（1/100 最適化）の 3 ケースで行っている。

2. 検討結果

- 検討の結果、効果量の目安は以下の様になった。

効果量の目安（オリフィスを 1/20、1/30 対応に最適化した場合） (m³/s)

	学校	公園	ため池	水田	調整池
効果量(1/20 降雨、1/20 最適化)	(19) 12	(8) 4	(82) 16	(64) 4	(17) 0
効果量(1/30 降雨、1/30 最適化)	(18) 12	(7) 4	(74) 15	(56) 4	(16) 0
整備施設	50%程度	50%程度	20%程度	10%程度	なし

()内は全体数値

合計で 35m³/s 程度となる。

効果量の目安（オリフィスを 1/100 対応に最適化した場合） (m³/s)

	学校	公園	ため池	水田	調整池
効果量(1/30 降雨、1/100 最適化)	(16) 5	(5) 3	(50) 10	(56) 4	(13) 0
整備施設	50%程度	50%程度	20%程度	10%程度	なし

()内は全体数値

合計で 20m³/s 程度となる。

2.1 学校

- 毎年1～2箇所を目標に、順次整備を行っていくことを考えている。

効果量一覧(学校)

(m³/s)

箇所数の割合	施設選定条件	効果量		
		1/20 降雨	1/30 降雨	
		1/20 最適化	1/30 最適化	1/100 最適化
100% (114 箇所)	青野ダム流域を除く	19	18	16
30% (36 箇所)	青野ダム流域を除く 私立を除いたグラウンド面積 10000m ² 以上	9	9	1
70% (78 箇所)	全施設の内、上記36箇所を 除く78箇所	10	9	15
50% (57 箇所)	公立優先 学校数の50%	12	12	5

- 1/20 降雨 (1/20 最適化)・・・36箇所で効果量9m³/s、その他は効果量0.13m³/s / 箇所程度
50% (57 箇所) で12m³/s 程度と推測
- 1/30 降雨 (1/30 最適化)・・・36箇所で効果量9m³/s、その他は効果量0.12m³/s / 箇所程度
50% (57 箇所) で12m³/s 程度と推測
- 1/30 降雨 (1/100 最適化)・・・36箇所で効果量1m³/s、その他は効果量0.19m³/s / 箇所程度
50% (57 箇所) で5m³/s 程度と推測

2.2 公園

- 毎年1～2箇所を目標に、順次整備を行っていくことを考えている。

効果量一覧(公園)

(m³/s)

箇所数の割合	施設選定条件	効果量		
		1/20 降雨	1/30 降雨	
		1/20 最適化	1/30 最適化	1/100 最適化
100% (80 箇所)	青野ダム流域を除く全127箇所 より選定 面積0.1ha以上 大規模なものは地形状況によ りオンサイト貯留	8	7	5
50% (40 箇所)	上記の公園の内の50%	4	4	3

2.3 ため池

- 公所有のもの、補修・改築をするもの等の、整備できるものから進めていくことを考えている。

効果量一覧(ため池) (m³/s)

箇所数の割合	施設選定条件	効果量		
		1/20 降雨	1/30 降雨	
		1/20 最適化	1/30 最適化	1/100 最適化
100% (108 箇所) この内、公所有 84 箇所	青野ダム流域を除く 満水面積 5000m ² 以上 流域面積 0.1km ² 以上	82	74	50
20% (21 箇所)	公所有優先 上記のため池の内の 20%	16	15	10

2.4 水田

- 農林との連携で整備を進めていくことを考えている。(年 5ha 程度)

効果量一覧(水田) (m³/s)

面積の割合	効果量	
	1/20 降雨	1/30 降雨
100% (1539ha)	64	56
10% (154ha)	4	4

2.5 防災調整池

- 下流河道が整備されない状態でオリフィスは改造できないため、整備計画レベルでは効果量は見込めない。(現状での効果は盛り込み済み)